

令和5年度学校評価（重点目標と具体的方策）

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(1) 自ら学び、考えて行動できる生徒の育成 ア 生徒が自ら考え、判断し、行動する機会の提供 イ 協働して課題を解決したり、目標に向かって努力したりする場の設定 ウ 学校ホームページ等による生徒の活動紹介 (2) 主体的・対話的な学習活動の推進 ア 学ぶことに興味・関心をもち、主体的に授業に取り組める授業改善 イ 生徒同士の対話を取り入れた、教科指導における探究学習の推進 ウ タブレットを用いた効果的な学習指導の工夫 (3) 高い志を育むキャリア教育の充実 ア 進路指導に関する情報の的確な発信と家庭との連携 イ 面談や進路行事等による進路目標の設定とその達成に向けた取り組みの支援 ウ 外部と連携した探究活動の実践による広い視野の獲得 (4) 健康な心身と豊かな人間性を育む教育活動の推進 ア 社会人としての規範意識と自律性の育成 イ 自他の生命を尊重し、互いの違いを認める態度の育成 ウ 生徒の心身の健康保持と安全・安心な学校生活のための支援 (5) コミュニケーションの充実と明るく楽しい職場環境作り ア 高い倫理観と危機管理意識の保持、不祥事・不適切指導ゼロの徹底 イ ICTの活用による超過勤務時間の縮減</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>学習指導(教務部)</p>	<p>①わかりやすく、知的好奇心を喚起する授業の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導マネジメントシートに従ってPDCAサイクルを意識した授業展開を行い、授業改善に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が、分かりやすい授業を実施するよう努めているか、生徒アンケートを行う。 学習指導マネジメントシートを活用し、授業改善に努めることができた。
<p></p>	<p>②主体的な学びと学力の深化を図る探究活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートを利用し、教員の自己点検、自己評価の実施 課題解決に向け、主体的に取り組むことのできる探究的な学習活動を取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間を設定し、職員間で互いの授業を参考にして授業を改善しようとする雰囲気がある。 4割以上の教員が、探究的な学習活動を取り入れよう意識して行うことができる。
<p></p>	<p>③ICT機器やGoogle classroom等を用いた学習指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> GoogleclassroomやGoogleフォーム等を用いて、生徒に授業評価アンケートを行い、授業改善に努める 教科主任会などを通して、ICT機器を用いた授業を展開することを積極的に促す 辞書アプリを積極的に使用するなど、ICT機器を用いて、課題解決につながる授業展開を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 3割以上の教員が、ICT機器を効果的に活用する指導ができる。 辞書アプリの活用やGoogleclassroom等で課題指示や連絡を行うなど、ICT機器を用いて、学習活動の支援を行うことができる。
<p></p>	<p>④家庭学習の質を高めるための授業と連携した学習課題の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年2回家庭学習時間調査の実施 家庭学習強化週間の設置 授業での予習、課題点検の実施 課題未提出者への提出指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 1週間の家庭学習時間が目標時間を越えているか、調査をする。 家庭学習強化週間で学習時間が平日より30分以上増やすことができた。 週末課題の未提出率が目標値を下回ったか、毎週集計し、個別指導等に役立てる。
<p>キャリア教育(進路指導部)</p>	<p>①進路情報の的確な発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」の発行 講演会、説明会の実施 卒業生の合格体験記のHP掲載 卒業生の合格体験交流会の実施 卒業生の学部学科説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、進路についての情報を、よく提供している。」というアンケートで、生徒、保護者ともに、8割以上が「かなりそう思う」または「少しそう思う」と回答する。
<p></p>	<p>②個に応じた指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 探究情報部と連携した学びみらいPASSによる生徒の適性の把握 進路希望調査の実施 担任面談の実施 進路検討会の実施 看護ガイダンスの実施 補習、特別講座の実施 個別指導(英作文、小論文、面接等)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、生徒の希望と適性を活かした、適切な進路指導を行っている。」というアンケートで、生徒、保護者ともに、8割以上が「かなりそう思う」または「少しそう思う」と回答する。
<p>キャリア教育(探究情報部)</p>	<p>①「総合的な探究の時間」によるキャリア意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 探究プロセス(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を意識した指導に努める。 キャリア教育コーディネーターとの連携を密にする。 地域社会と連携し、社会人講話や学校外調査などの体験的な活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間を通して、自らの進路や将来を見通したり、つながりたりする機会となり、自己の強みや興味関心を理解し、新たな発見をする機会になったか」というアンケートで7割の生徒が、「かなりそう思う」または、「少しそう思う」と回答する。

生徒会活動 (生徒会部)	①生徒が主体的に取り組める部活動・学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の準備に積極的に取り組ませる。また、積極的に入部を勧誘して、部活動への参加を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が積極的に生徒会行事に取り組み、球技大会、南高祭などの学校行事で充実感を得る。また、部活動の登録人数が全体の95%を超え、多くの部活動が県大会に出場する。
生活指導 (生徒指導部)	①規範意識と自己指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝交通安全指導の実施 ・警察による交通安全講話の実施 ・学年単位の交通安全講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨天時の合羽未着用者のチェック指導を引き続き実施し、合羽着用の徹底を図る。 ・登下校時の立番指導日を増やし、交通法規や交通マナー遵守の徹底を図る。
	②いじめ防止を含めた人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・警察職員によるサイバー犯罪防止講話の実施 ・人権講話の実施 ・いじめの早期発見、事案への適切な対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携して、「スマホ・携帯・PC使用ガイドライン10」の遵守を呼びかけ、ネットマナー確立に取り組む。 ・ネットパトロールによる監視を行い、不適切な投稿等の早期発見に努める。 ・学校生活環境調査を実施し、生徒の学校生活における諸課題を早期に収集し、いじめなどの重大事案の早期発見、適切な対応に結び付ける。
学校保健 (保健厚生部)	①健康保持と安定した学校生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断の実施。 ・救急蘇生講習会の実施。 ・「保健だより」の作成。 ・「命のサポートプログラム」の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は生徒の健康管理に取り組んでいる」という生徒・保護者向けのアンケートで、「その通りだと思う」、または「どちらかといえば、その通りだと思う」という回答が8割以上を占める。
	②相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業明けに「心と体のストレスチェックアンケート」を実施。 ・相談委員会の実施。 ・SCやSSWとの連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「学校には、悩みなどの相談に乗ってくれる先生が多くいて安心できる」で、「その通りだと思う」、または「どちらかといえば、その通りだと思う」という回答が8割以上を占める。
	③安心・安全な学校環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の健康チェック。 ・感染症予防対策の実施。 ・清掃点検の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校舎などの施設は、衛生的に管理されている」という生徒・保護者向けのアンケートで、「その通りだと思う」、または「どちらかといえば、その通りだと思う」という回答が8割以上を占める。
多忙化解消 (管理職)	①ICTの活用による超過勤務時間の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ・退校時間の厳守 ・考査時間を利用した、早めの退校時間の設定 ・会議の実施の有無の見直し ・業務の見直しと再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時、午後7時30分校舎施錠を徹底する。 ・長期休業、考査期間中の早めの校舎施錠を徹底する。 ・休暇取得の呼びかけを、時機を得て繰り返す。 ・業務の見直しと効率化を図り、教職員の負担を軽減する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用による主体的・探究的な学びの推進について ・高い志を育むキャリア教育の充実について ・心身ともに健康で、豊かな人間性を持つ生徒の育成について ・働き方改革の進行状況について 	

令和4年度学校評価（自己評価結果と課題）

<p>前年度の 重点目標</p>	<p>(1) 主体的に学び、チャレンジ精神を備えた生徒の育成 ア 生徒が自ら考え、判断し、行動する機会と時間の提供 イ 協働して課題を解決したり、目標に挑戦する場の設定 ウ 「総合的な探究の時間」や教科指導における探究学習の推進 エ 学校ホームページや絆ネットによるタイムリーな情報提供</p> <p>(2) ICTの活用による主体的・探究的な学びの推進 ア わかりやすく、知的好奇心を喚起する授業の実施 イ 主体的な学びと学力の深化を図る探究活動の推進 ウ ICT機器やGoogleclassroom等を用いた学習指導の工夫 エ 家庭学習の質を高めるための授業と連携した学習課題の研究</p> <p>(3) 高い志を育むキャリア教育の充実 ア 進路指導に関する情報の的確な発信と家庭との連携 イ 面談や進路行事等による、進路目標の設定とその達成に向けた取り組みの支援 ウ 学年、教科、分掌の連携による個に応じた指導の充実</p> <p>(4) 心身ともに健康で、豊かな人間性を持つ生徒の育成 ア 生徒が主体的に取り組める部活動・学校行事の推進 イ 社会人としての規範意識の育成と自己指導力の向上 ウ 自他の生命を尊重し、違いを認める態度の育成 エ 思いやりの心に立った、共感的な人間関係の構築 オ 生徒の心身の健康の保持と安定した学校生活のための支援 カ 生徒や保護者との信頼関係に立った相談活動の充実 キ 安全で安心な学校環境の整備</p> <p>(5) コミュニケーションの充実と明るく楽しい職場環境作り ア 高い倫理観と危機管理意識の保持、不祥事・不適切指導ゼロの徹底 イ ICTの活用による超過勤務時間の縮減</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>①わかりやすく、知的好奇心を喚起する授業の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導マネジメントシートに従ってPDCAサイクルを意識した授業展開を行い、授業改善に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期ごと、学習指導マネジメントシートを活用し、教科ごとに授業反省を行い授業改善に努めることができた。
<p></p>	<p>②主体的な学びと学力の深化を図る探究活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートを利用し、教員の自己点検、自己評価の実施 課題解決に向け、主体的に取り組むことのできる探究的な学習活動を取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間を設定し、職員間で互いの授業を参考にして授業を改善しようとした。 探究的な学習活動を取り入れようと校内研修を通して、実践を意識することができた。
<p></p>	<p>③ICT機器やGoogle classroom等を用いた学習指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> GoogleclassroomやGoogleフォーム等を用いて、生徒に授業評価アンケートを行い、授業改善に努める 教科主任会などを通して、ICT機器を用いた授業を展開することを積極的に促す 辞書アプリを積極的に使用するなど、ICT機器を用いて、課題解決につながる授業展開を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケートでは、7割以上の教員が、ICT機器を効果的に活用する指導ができると回答した。 辞書アプリの活用やGoogleclassroom等で課題指示や連絡を行うなど、ICT機器を用いて、学習活動の支援を行うことができた。 教務部内で、ICT機器を用いた研修会を行った。
<p></p>	<p>④家庭学習の質を高めるための授業と連携した学習課題の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年2回家庭学習時間調査の実施 家庭学習強化週間の設置 授業での予習、課題点検の実施 課題未提出者への提出指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習強化週間で学習時間を平日より30分以上増やすことができた。 週末課題の未提出率が目標値を下回っていないかを集計し、個別指導等に役立てることができた。
<p>キャリア教育 (進路指導部)</p>	<p>①進路情報の的確な発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」の発行 講演会、説明会の実施 卒業生の合格体験記のHP掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、進路についての情報を、よく提供している。」というアンケートで、生徒は8割以上が、保護者は8割弱が、「かなりそう思う」または「少しそう思う」と回答した。保護者への情報発信をさらに充実していきたい。
<p></p>	<p>②個に応じた指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 探究情報部と連携した学びみらいPASSによる生徒の適性の把握 担任面談の実施 進路検討会の実施 看護ガイダンスの実施 補習、特別講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、生徒の希望と適性を活かした、適切な進路指導を行っている。」というアンケートで、生徒、保護者ともに、8割以上が「かなりそう思う」または「少しそう思う」と回答した。引き続き指導を充実させていきたい。
<p>キャリア教育 (探究情報部)</p>	<p>①「総合的な探究の時間」によるキャリア意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 探究プロセス（課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を意識した指導に努める。 キャリア教育コーディネーターとの連携を密にする。 地域社会と連携し、社会人講話や学校外調査などの体験的な活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究プロセスを理解できたというアンケートで、8割以上が「できた」「まあまあできた」と回答した。 地域社会と連携し、生徒269名、55社の企業・団体へインタビュー調査に参加した。職業観や勤労観を養い、自己の生き方あり方を考え、学びに向かう姿勢を育てる機会を作ることができた。

生徒会活動 (生徒会部)	①生徒が主体的に取り組める部活動・学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の準備に積極的に取り組ませる。また、積極的に入部を勧誘して、部活動への参加を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由登録制に変更したが、9割以上の生徒が登録している。 運動部・文化部で優秀な成績を収める部活が増えてきた。 学校への貢献や、活動そのものの更なる活性化を考えると、活動環境を十分保証したい。
生活指導 (生徒指導部)	①規範意識と自己指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 早朝交通安全指導の実施 警察による交通安全講話の実施 学年単位の交通安全講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 雨天時の合羽未着用者のチェック指導を実施し、合羽着用の徹底を図った。 登下校時の立番指導日を増やし、交通法規や交通マナー遵守の徹底を図った。
	②いじめ防止を含めた人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 警察職員によるサイバー犯罪防止講話の実施 人権講話の実施 いじめの早期発見、事案への適切な対処 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携して、「スマホ・携帯・PC使用ガイドライン10」の遵守を呼びかけ、ネットマナー確立に取り組んだ。 ネットパトロールによる監視を行い、不適切な投稿等の早期発見に努めた。 学校生活環境調査を実施し、生徒の学校生活における諸課題を早期に収集し、いじめなどの重大事案の早期発見、適切な対応に結び付けた。
学校保健 (保健厚生部)	①健康保持と安定した学校生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断の実施。 救急蘇生講習会の実施。 「保健だより」の作成。 「自殺予防教室」の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断、救急蘇生講習会は予定通り実施。「保健だより」は生徒保健委員に執筆させ毎月定期的に発行。 「自殺予防教室」は「命のサポートプログラム」と名称を変更して1・2年生を対象に実施。
	②相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業明けに「心と体のストレスチェックアンケート」を実施。 相談委員会の実施。 SCやSSWとの連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年、教育相談案件が増加傾向にある。家庭の問題や交友関係での問題など様々だが、教育相談委員会や特別支援委員会などをこまめに開催し、教職員間の情報共有を果たしながら何とか対応できた。しかし、今後も相談案件が増加するであろうということを考えると、ますます教職員間の協力体制やSCやSSWとの連携強化を図る必要がある。
	③安心・安全な学校環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の健康チェック。 感染症予防対策の実施。 清掃点検の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防のため昨年度と同様の感染防止体制を整えた。しかし、コロナ収束の流れの中で感染対策がやや形骸化してしまった。 清掃点検は定期的な実施ができず、清掃状況の把握に後れをとった。しかし、2学期以降、美化委員を動員して定期的に清掃点検を実施し、清掃状況の改善を果たすことができた。
多忙化解消 (管理職)	①ICTの活用による超過勤務時間の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 退校時間の厳守 考査時間を利用した、早めの退校時間の設定 会議の実施の有無の見直し 業務の見直しと再構築 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時の退校時間は、職員の協力もあり午後7時30分にほぼ徹底できた。 職員会議をペーパーレス化することで、会議時間の短縮を図ることができた。 新学習指導要領の実施やICT教育の実践等に伴う新たな業務が負担となり、業務の見直しによる超過勤務時間の縮減はできなかった。

学校関係者評価結果等

自己評価結果について	生徒・保護者・教職員の評価について、概ね良好な結果が得られているが、アンケートに回答した生徒・保護者・教職員の人数が少ないので、今後の方針を定めるためには、できるだけ多くの回答を得る方策が必要である。
今後の改善方策について	アンケートに回答する時間をLT等で確保し、全員のアンケート結果を回収できるようにする。
その他(学校評価委員会から出された主な意見、要望)	ICT教育について、タブレットを有効に活用する鍵は、双方向でのやりとりであると思う。 校則の改定については、生徒自身に考えさせるのも教育であると思う。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	学校評議員(3名)及び保護者代表(4名) 5月、10月、3月